

仙台司教区

教区事務所だより



(第 35 号)
昭和55年9月1日

くすしき神のみはからい

Y B U 新センター誕生

7月24日、建設中だった仙台YBU文化センターが完成、落成式を挙行了た。

教会、YBU関係者、ジョリコール神父の知友など約二百人が集まって、新しい仙台YBUの新発足を盛大に祝った。

式は午後2時すぎ、佐藤仙台司教司式の祝別式が、一階チャペルから二階、三階ホールにおよんだ。

次いで喜色を満面にたたえた館長ジョリコール神父が、一時不可能視された新センター建設が神のみ摂理によってかくも見事に完成された経過を述べ、敷地の寄贈者伊沢一家をはじめ、工事費に協力された内外の後援者、工事に携わった方々に感謝の意を表明した。

佐藤司教のあいさつの後、YBU理事長・浜尾横浜司教のあいさつを齋藤石雄神父が代読。次いで9月新理事長に就任予定の島本要浦和司教は、自分の理事長正式就任に先立ち、かくも見事なセンターの落成をみたことは、

まことにめでたい幸先であると、喜びの祝辞を述べた。

また、設計・施行の安藤建設(株)仙台支店、ガス・暖房工事の(有)フミゾノ商店に館長からその労を謝して感謝状と記念品が贈られた。

YBU顧問会の猪岡修一氏が建設後援会を代表して、ジョリコール神父から総工事費のうち、約二十万円が不足、カナダから約一千万円を集めるつもりだが、残りの一千万円は国内で集めてもらいたいと要請があったので顧問会を中心に教会内外のジョリコール神父の仕事に理解ある識者に訴えて募金をしてきて、23日までに150人から37万円を入金、と報告、安藤建設に対する最後の支払い二千百万円は明年1月末なので、それまでに協力を依頼した。

敷地寄贈の伊沢平勝氏に館長からその慈愛のごとき温情に対し感謝状を贈り、伊沢氏のユーモアあふれる祝辞があった。

なお、本日の盛儀に、はるばる参加された伊藤新瀉司教からも祝辞があり、勝山企業(株)寄贈の銘酒「勝山」の樽を伊沢氏とジョリコール神父で鏡開き、小林有方司教の音頭で一同拵酒で乾杯。屋上のビヤ・ガーデンと二階で祝賀パーティーに入り、その間、祝電披露や来賓の祝辞が放送され、和気あいあいの内に、落成式と祝賀会を終了した。

ガスパリ駐日教皇大使

仙台教区を公式訪問

一九七七年十二月、駐日教皇庁大使として着任されたマリオ・ピオ・ガスパリ大司教の仙台教区初の公式訪問が、来る10月24日から約一週間に渡って行われる。教区内の教会、修道会、宣教会、施設等視察される予定であるが、教区民一同心から歓迎の意を表したい。

十

松岡初代名古屋司教 帰天



初代の名古屋司教である松岡孫四郎司教は8月6日午後10時52分、脳軟化症のため、引退先の郷里、長崎のお告げのマリア修道会十字修道院で逝去された。93歳の高齢であった。松岡司教は、一九四一年から六九年までの約30年間、名古屋教区長として、戦中、戦後の混乱期に、活躍、多くの修道会、宣教会を教区内に誘致して、今日の名古屋教区の基礎を築かれた。故松岡司教の冥福を祈らう。

映画「忘却の海峡」上映

樺太抑留韓国人帰還運動

についての講演も

6月29日(日)午前10時半と午後1時半の二回にわたり、岩手カトリック・センターで、映画「忘却の海峡」(松山善三監修・脚本、中日映画社製作、1時間20分)の上映と、その企画責任者の三原令さんによる講演「樺太抑留韓国人帰還運動について」が行われた。合わせて約一三〇名の教会内外の聴衆に新たな認識と深い感銘を与え、それに関する国連事務総長宛の署名運動も展開された。

戦時中に国家総動員法により韓国から樺太へ強制連行されて、そのまま帰国できないでいる抑留韓国人は4万人を超すという。戦後日本人は引き揚げたが韓国人は置き去りにされ、ソ連の占領と南北朝鮮対立の谷間で日本にも忘れられたままである。30数年を経て老齢に達した彼らは、一度だけでも故国の地を踏み妻や兄弟達に会いたいとの悲願をもっているが、その術を知らない。世論の支持を得て何とか帰郷を実現させてやりたいというのが、この映画と運動の趣旨である。

盛岡市内では、人権擁護の立場からカトリックとプロテスタントの12の教会が協力して、この映画の上映を計画し、このたび実現の運びになったものである。なお、センターの他に善隣館と青山教会においても上映し、盛況であった。

(文責 菅野)

※祝 司祭叙階25周年

M・ガリエ師(郡山教会)



郡山カトリック教会主任司祭のミシエル・ガリエ師は、去る8月13日司祭叙階25周年を迎えた。ガリエ師は、昭和4年カナダに生まれ、昭和30年、カナダ・オタワのドミニコ会で司祭に叙階。昭和32年12月来日、約2年間日本語学校で勉強の後、福島県の湯本、松木町、小名浜、須賀川、そして一時、仙台の学生センターでも働かれ、7年前に郡山教会に着任された。現在主任司祭として21世紀の教会作りを力を入れておられる。

ちなみに、ガリエとは、勇ましい鏝(カリエ)のつば(ガリエ)という意味だそうで、ミシエル・勇鏝と記名することもある。

伝道百周年を

明年にひかえて

カトリック気仙沼教会V



明治13年に、ル・マレシャル神父により布教の種が蒔かれ、翌14年に受洗者9名を出し、6年後の明治20年に、宮城県における第2番目のカトリック教会として誕生した気仙沼カトリック教会は、来年で伝道百年を迎える。

2年前から、百年というこの意義ある年にふさわしい行事を、という信徒の熱い願いをこめて、信徒各位の積立金の開始、明治42年に建てられた木造ロマネスク様式の聖堂の市文化財指定化請願、又、老朽化した司祭館、幼稚

園舎の危険さと不便、狭い聖堂と庭の不便等を解消するため、信徒の集会所も兼ねて司祭館兼幼稚園舎の新築に向かって動いている。百年というこの二文字の綴る歴史は、神の恵みに導かれての事とはいえず、当教会のみの歴史とは思えないものがある。当教会伝道百周年の年が、より神に恵まれ、新たな布教の礎の年となるよう、気仙沼信徒の熱心を祈りに加えて、教区内各位にも共に祈って下さることを切望している。(村上 武)

広報活動について話し合う

福島県浜通り地区

信徒連絡協議会V

福島県浜通り地区、平、湯本、小名浜、勿来の4教会は、定期的な教会の連絡、親睦について話し合っているが、去る6月8日第3回の委員会の席で、広報委員の古田氏から、教区の広報と「教区便り」の充実に関する事について説明があり、次の件を申し合わせた。

教区便りについての協力

*各教会の信徒会に広報委員を置き、教区便りへの資料提供等の仕事を担当する。

*小教区報のある所は、毎回一部、教区事務所へ送付する。持たない所は、教会内のニュースを、文書、電話等で知らせる。

*広報委員は、グループ組織とし、後継者養成につとめる。

*個人の投稿、子どもの絵、作文等を奨励する。(子どもの場合、賞品等を考えてもらう。)

上
紙
テレフォン
サービス



*ふたたび宮城県信徒大会
における質問に、答えて

去る7月6日、仙台白百合学園で宮城県信徒大会が開かれた際、臨席の司祭団に対して、「主日に、ミサに与るべし」との教会のおきては廃止されたのか、それともまだ存続しているのか。かつては、これに反すれば大罪と教えられてきたが」との質問がなされました。それに答えて私は、このおきてそのものについて書かれた論文（ミサに与らなかつたとき、どんな場合に罪となり、そしてその程度は、等）には近頃お目にかかったことがないが、ミサについての解説書は第二バチカン公会議後、怒濤のように出版された。これは、私たちがミサに与るのは教会のおきてがこれを命ずるから、というのではなく、ミサそのものの意味を深く理解し、進んでこれに与ることを教会が期待していることを示すものであろう、と答えました。

ところが、その後、友人の司祭から、「主日のミサに関するおきては廃止されてしまった」と受けとった信者もいる、という知らせがありました。もし、そのように受けとられたとしたら、私の舌足らずの言葉のためであって、

あらためて典礼憲章第百六条の左の全文をもって答えさせて頂かなければなりません。

「教会は、キリストの復活の当日にさかのぼる使徒伝承により、復活秘義を、八日目毎に祝う。その日は、それ故にこそ、主の日、または主日と呼ばれている。この日、キリスト信者は、一つに集まらなければならぬ。そして神のこゝばを聞き、聖体祭儀に参加して、主イエズスの受難と復活と栄光を記念し、不エズス・キリストが、死者のうちから復活したことによつて、生きる希望へと再生させた」（1ペトロ1・3）神に感謝をささげるのである。したがつて主日は、信者の信仰心に明示し強調されなければならない根元の祝日であつて、こうして、喜びの日、休息の日ともなるのである。他の祭儀は、真にきわめて重要でない限り、主日に優先させてはならない。それは、この日こそ全典礼の基礎であり、中核だからである。」

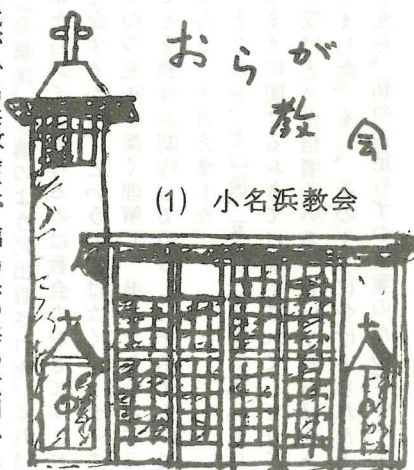
まことに、主日にミサを献げ、これに与ることは、主キリストの復活のその日までさかのぼる使徒伝承によるものであつて、なんびとといえども、これを廃止することのできない神聖なおきてです。

典礼憲章第四十八条は、私達信徒がどのような心がけてミサに与るべきかについて、教会の深い配慮を表わしています。

「教会は、キリスト信者が、この信仰の秘儀に、外来者、或は無言の傍観者として列席するのではなく、儀式と祈りによつてこの秘儀をよく理解し、聖なる行為に、意識的に、敬けんに、また行動的に参加し、神のこゝばによつて教えられ、主のからだの食卓において養われ、神に感謝をささげ、ただ司祭の手を通してだけでなく、信者も司祭とともに清い供え物を奉獻して、自分自身を奉獻することを学び、こうして、キリストを仲介者として、日々神との一致と相互の一致の完成に向かい、ついには神がすべてにおいてすべてとなるよう全力を傾注しているのである。」

典礼憲章のこれらの条文を読みますとき、主日にミサに与るべし、とのおきては重荷としてのおきてではなく、むしろ神のこよなき恵みとして受けとられ、感謝すべきこととなるのではないでしようか。第二奉獻文の次の一節もこのことをうたっています。

「わたしたちはいま、主イエズスの死と復活の記念を行い、
ここであなたに奉仕できることを感謝し、
いのちのパンと救いの杯をささげます。」
(斎藤石雄神父)



我が小名浜教会は、福島県の海の玄関小名浜港の間に近にある。昭和25年、故ダビオ神父によって創設され、聖堂はコンクリート造りで県内最大の規模を持つ。しかし信徒は百名ふだんの日曜ミサには三、三十名位。教会紹介の最初にしてはいささか気のひける数字であるが、小さな教会の良いところもある。司祭を中心にして家族的であり、まとまりがよい。信徒組織は、信徒会（ヨハネ会）の許に財務・福祉（SVP）、広報、一粒会、カナの会、県信徒連絡協議会（浜通り協議会を兼ねる）、婦人会、の各委員会があり、又、婦人会に独自の活動として販売部と革工芸教室がある。委員は教職兼務が多いが、信徒教から言つてこれはやむをえない。

信徒会の今年度の方針は、使徒パウロの、「山を動かす程の信仰があつても愛がなければ、なんの価値もない」との教えに基づき、「信徒一人一人が身近な所で人の手助けをしよう」である。又、教会内部の緊急課題であ

る諸問題、即ち「聖書に基づく家庭内の信仰教育」、「信徒間の緊密化と教会間の連繫」、「小教区財政の信徒管理」、「司牧面で信徒の果たせる役割―司祭不在の場合を考えて―」等の勉強と、出来るものから実行して行く事に重点を置く。以上の裏付けとなるものは聖書の分かち合いにあるとして、隔週信徒の家庭回り持ちで、隣組常会を兼ねた集会を開く。主任司祭の強力なバックアップのあることは勿論である。

ここで、主任司祭モレン師のプロフィールを紹介すると、師は今年五十歳。ドミニコ会士としては若手で、ものすごいパワーの持ち主。当教会としては二代と四代（現）目の主任司祭で、通算21年在任。すっかり小名浜っ子でダジャレの名人。土地の人にも親しまれている。現在は小名浜と勿来の教会と幼稚園を掛け持ち、グローロ師不在の平教会の土曜ミサ（日曜は湯本のラローズ師）も受け持つておられる。自教会の聖書分かち合いや各委員会、信徒訪問やボランティア活動の他、教区とドミニコ会の役職と集会、特に司牧評議会と県信徒連絡協議会を高く評価し熱心に推進されている。

又、エキニメニカルの観点から、市民クリスマスや朝禱会の有力メンバーであり、立正校成会とも仲がよい。その効果は、先日のマザー・テレサ映画会に表われ、これらの方々から協力を頂いたし、別に観賞会を行った平メソジスト教会からは、場内寄付金をテレサに贈るように函のまま当教会に依頼された。

詩いた種は少しづつ実つて行く。教会付属白百合幼稚園の教育にも熱心で、母の会に対する講話、ボランティア活動等紹介したいが、紙数の関係で割愛する。

シノドスのために祈ろう

△特別祈禱日10月12日(日)▽

教皇ヨハネ・パウロ二世は、全世界の教会に書簡を送り、来る9月26日から、ローマで開かれる第6回世界代表司教会議（シノドス）のため、特別の祈りと犠牲を求めた。今年のテーマは「現代世界におけるキリスト者家庭の役割」である。シノドスの成功のため、キリスト者家庭が心を一つにして10月12日の祈りに参加しよう。

笑 憩



「御苦勞様」

イエズス会のX師、日本語学校で、目上の人には、「様」、対等の人には「さん」、目下の人には「君」と言いなさいと教わった。X師、電車に乗って荷物を棚に上げようとしてよろめいて荷物を散乱させてしまった。そばにいた学生が拾い集めてくれたので、お礼を言おうとして考えた。

（この人は、確かに自分より目下の人だ！）
そして感謝をこめて言った。

「御苦勞君！」

1980
教区目標

聖書に基づいた
家庭における
子供の
信仰教育
(3)



去る7月6日(日)、宮城県信徒大会において、
パネラーとして話された宮城教育大学教授・
近藤義忠氏(西仙台教会)の講話の要旨を紹
介し、80年代の子どもの達の現状をながめたい。

「子どもの生活現実と教会」

近藤 義忠

現在の子どもの達の生活と、私達今の大人が
かつて体験して来た子供時代の生活との間に
は、大きな変化が見られる。最近の子どもの達
は、朝からいねむりをしてる子、遊ばなく
なった子どもが多くなった。精神的にも肉体的
にも不安定で、生き生きした子どもも本来の
姿が失われてきている。以前は、各家庭に独
特の価値観があり、子ども達もそれを大切に
して生きたものである。しかし今日の家庭は、
皆画一、一律化し、ただ人並みに、という基
準に人をかり立てている。子ども自身、自分
が一体何を目ざして生きているのかよくわか
っていない。

国際児童年の昨年のアンケートによると、

日本の子どもは外国の子どもに比べて、両親
に対する尊敬の念が低く、父権喪失が目立つ。
又、子どもの行動形式をながめると、子ども
の主体性のなさが目立ち、何のために進学す
るのか、という理由づけも、ただ良い仕事に
つきたい、皆がそう言うから等という傾向が
強い。

最近教会の中でも、よく、「子どもが見え
なくなつた」という嘆きを聞く事がある。こ
の事は、教会に来れない子ども達も日常化し、
教会に来なくなつてしまつたといえよう。こ
れは、私達大人が、自分自身の生き方に確信
を失い、自らの抛り所を見失っていることと
表裏をなしている。子どもの信仰教育につい
て考える場合にも、その前提として、最も重
要な事は、現代の社会と私達一人一人の生き
方についての反省であり、その上に立つて、
子どもの生活の内面に積極的に立ち入り、彼
らの信仰と日常的な生活課題を統一的に理解
するものでなければならぬように思う。

ひとりよがりの優等生よりも、いつも周囲
に気を配り、ひとつのパンを分かちあえるよ
うな子どもの方がすばらしい。そんな子ども
が育つ環境としては、教会は、まさにうって
つけであり、それと同時に、私達大人のひと
りひとりが親として、仲間として、子ども達
にとつて、文化的に、教育的に、特に人間の
に、よき生活環境の一部になることが大切で
はないだろうか。



司教様の日程

- 9月8日~10日 仙台司教区司祭大会
- 11日 社会福祉法人児童福祉会理事會
- 16日 宮城県宗教法法人連絡協議会研修会
・代表者會議
- 18日 男・女修道會合同役員會
- 19日 スペルマン病院理事會
- 21日 花巻教會設立25周年記念・堅信
- 22日 白百合短大図書館落成・祝別
- 23日 司牧評議會定例会議
- 27日 司祭評議會役員會



良書案内

祈りの友

△信仰の伝統を
現代に生かす
祈りの本▽

現代の最も憂慮すべき事態の一つと
して取り上げられるのが、「祈りの喪
失」である。このような状況をすぐに
好転させる即効薬などというものがな
いだけに、信仰の伝統に根ざした現代
的感覚による祈りの形を地道に作つて
ゆかなければならない。本書がそのた
めのささやかな道しるべともなれば幸
いである。

発行 カルメル會 カルメロ神父編

奥村神父監修
定価 一、四〇〇円

報告

ヤングクリスチャン

トレーニングを終えて(第六回)

△青森県▽

「ラッセル／ラッセル」8月4、5、6日、青森市内はネブタ祭の真っ最中。このどよめきをよそに、青森県内各地から集まった信徒高校生20名、大学生4名、一般9名の計33名は、人里離れた施設「青森県精神薄弱者総合福祉センター」なつどまり」に集い、ボランティアの実務研修を受けた。

研修と信仰の接点、反省会、語り合いの指導は協議会で行なったが、実務に関してはすべてこの施設の指導部が専門的な立場から行なった。即ち、スタッフも含め、高校生参加者全員が、一緒に同じ研修生となって指導を受けた。

第一日目は、オリエンテーション、施設見学、入所者と一緒のレクリエーション指導。

二日目は実務だ。いきなり重度の部屋には入りこまれる。彼ら入所者は奇声をあげて私たちに近づき、いきなりつかみ、抱きつく。よだれをたらす者、うずくまってる者、ウロウロ歩き回るだけの者。とにかく異様に見える。知能の程度は二歳位から四歳位と分かっているも体は大人だ。みんな逃げ腰になる。それをじっとこらえて30分、1時間。やがて私たちの心が少しづつ変わってくる。彼らの心が少し見えてくるのだ。すみの方にいた高校生もすっかり安心と自信をもって一緒に遊んでいる。あちこちから研修生たちの笑、声

*古い「炬火」を

お持ちの方はいませんか？

教区事務所では、資料整備の一つとして、仙台司教区教区報「炬火」(昭和43年度以降休刊)の整備をしたところ、戦後再刊されたものの内、下の表の●印の月が欠落喪失しているのがわかりました。これら資料は、仙台司教区の歴史、その他を知るために役に立つものですので、欠落号を補填し、各号をそろえたいと思います。下の表の●印のついた号(●印は補填済)をお持ちの方は、教区事務所まで御一報下さい。コピーさせていただきます。

が聞こえてくる。

又、草とり作業も彼らと一緒にだ。彼らに話しかけ、楽しい仕事をする。もちろん昼食も彼らと一緒に。

夕方実務研修が終わり、ふろから上がった研修生一同の顔はどれもみな安心と喜びの色にあふれていた。この夜は遅くまで一日の体験を語り合った。この分かち合いから今回の目標、「精進者を見る目を変えたい」

「体験を通して信仰をみつめたい」という協議会の願いは十分に達せられたと思った。

三日目の施設職員との話し合い、終了式を終えて、一同なごり惜しい気持ちで別れを告げた。

(新松)

炬火 欠落号表

年号	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
昭和28	●	●	●	●	●			●				●
29	●	●	●					●	●			
30	●	●										●
31								●	●			
32												
33				●				●	●			
34			●								●	
35	●											
36		●	●					●				
37					●	●	●		●			
38	●				●			●				
39				●								
40								●			●	
41		●		●								●
42	●	●	●								●	●

【編集後記】

*異常天候のおかげ(?)で夏一か月、でも夏は夏らしく暑くなければ、と考えたり：*今月から「おらが教会」を連載します。トップバッターは小名浜教会。教会の様子が手に取るようにわかりますね。次回もお楽しみに！*天高く：の秋。運動に、勉強に、読書に、そして霊的実りの秋でもあるよう努力したいものです。

仙台司教区事務所だより35号

昭和五十五年九月一日発行

発行所 仙台司教区事務所

〒980 仙台市本町一丁目2番12号 TEL 0222 22 7371